

復活節第六主日

2012.5.13

ヨハネ 15・9-17

「互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」心に鋭く突き刺さって来るイエスのみことばです。イエスのこのみことばを聴いても平気でいられるとするなら、私たちはイエスのみ前で、どこか自分をごまかしているのです。聴いたふりをして、本当には聴いてはいないのです。イエスが十字架の死を前にして残された、このみことばに込められたイエスの想いは私たちの心には届いていないのです。私たちのために十字架に架けられて死んでくださったイエスの愛を信じる私たちのカトリック信者としての信仰は、どこか上滑りしていて、まだ本当には自分のものとはなっていないのです。

そんなはずはありません。今日もこうして、イエスの十字架の死と復活を記念するミサに集った私たちは、イエスのこのみことばに打ちのめされる自分を感じているはずです。だから、このイエスのみことばは鋭い刃になって私たちの心に突き刺さってくるのです。けれども、その痛みの中で、その痛みに気付くことによって、私たちは真実イエスのみことばを、自分に向けられているみことばとして受け止めることが出来るのです。イエスのみことばによって突き刺された心の傷みの中で、その痛みを感じる事が出来ていることによって、私たちは十字架のイエスと結ばれるのです。イエスの十字架の痛みが何のための痛みであったかを知る事が出来るのです。「互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」と言われたイエスの愛の掟に従って、その通りに歩むことが出来ない私たちの痛みを負って、その痛みを癒すためにイエスは十字架の苦しみの死を受け入れてくださったのです。

イエスの愛の掟は、私たちをイエスの十字架に招くために与えられているのです。私たちのために十字架に架けられて死んだイエスの愛を信じる、私たちの信仰が私たちの中にどのくらい成長しているか計るバロメーターとして、私たちに与えられているのです。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」イエスのこの愛の掟に従って歩もうとして、私たちはその都度、挫折の痛みを味わいます。イエスは「互いに愛し合いなさい。」と言われているけれども、私たちには、互いに愛し合う事が出来るような相手を見つけることが困難だからです。イエスの言われるとおりに愛そうとしても、善意の愛が素直に受け入れられて、愛になって帰ってくるような関係を維持することは、特に身近な絆で結ばれているもの同志の間ではますます難しくなることを感じているからです。

そのような挫折の袋小路の中にいる私たちは、イエスが愛の掟を残されたあの最後の夜に同席させていただくようにして、今日の福音のイエスのみことばに耳を傾けなければなりません。

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたもわたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。」とイエスは語りかけておられます。「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。」とイエスは語りかけますが、あの最後の夜、イエスのこのみことばは、どこまで弟子たちの心に届いていたと言えるでしょうか。イエスのこのみことばが本当に弟子たちの心に届き、弟子たちがそれを受け入れることが出来ていたなら、弟子たちはイエスを十字架の上に見捨てることはなかったことでしょう。イエスはそのような弟子たちを知っておられるのです。あの最後のときになっても、弟子たちはイエスが語られることを理解することが出来ずにいたのです。そのような弟子たちに対して、イエスは「私はあなたがたを友と呼ぶ」と言われるのです。「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた」と言われるイエスの愛を受け止め切れていない弟子たちに、イエスは「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」と言われているのです。イエスは父なる神の愛をもって弟子たちを愛してきたのです。けれども、そのイエスの弟子たちへの愛は、弟子たちには理解されていなかったのです。ここにイエスの十字架があります。愛する者への愛が愛する者の心に受け止められていないということが十字架を産むのです。「友のために自分のいのちを捨てること、これ以上に大きな愛はない。」受け止められない愛を受け止めさせるために、イエスは十字架の上で、御自分が友と呼ばれた者たちのためにそのいのちを差し出されたのです。イエスのその十字架において、この世に生きる私たちの上に注がれている父なる神の愛が啓示されたのです。ご自分が創造された者たちへの愛が、その愛によって創造された者たちに受け止められていない神の愛が啓示されたのです。父なる神の愛の結晶であるべき私たちに受けとめられない父なる神の愛と一体となって、受け止められることのない父なる神の愛をこの世界に示すために、イエスは十字架の上にそのいのちをささげられたのです。それが、父なる神の独り子としてのイエスが父なる神から与えられた掟であったのです。神がお与えになった掟に背き続けたこの世界に神が最終的にお与えになった掟に父なる神の独り子であるイエスは従いとおされて、十字架の上にそのいのちをささげられたのです。それがイエスの従い通された愛の掟です。

「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい。」という愛の掟は、イエスがそれを私たちに与えられる前に、イエスが生きられた、イエスの

いのちがそのためにあった、父なる神がイエスに与えられ、イエスがそれを全生涯をもって受諾された掟なのです。そのイエスのいのちに私たちを招くためにイエスはこの愛の掟をお与えになったのです。それは、父なる神がお与えになったこの掟にとどまることによって、父なる神の愛のうちにとどまり続けたイエスの愛に私たちを招き入れるイエスの愛の招きなのです。

イエスは、「互いに愛し合いなさい」といわれますが、それは、私たちが和気藹々と愛し合うということではないのです。イエスの弟子たちへの愛が示しているように、そのイエスの弟子たちへの愛によって示されている父なる神の愛がそうであるように、受け止められることがないことを知りながらも、愛し続ける愛への呼びかけです。愛とはそのようなものなのです。受け止められることを前提として愛の見返りを求める愛はまだ本当の愛ではなのです。

「互いに愛し合いなさい。これが、私の命令である。」今日の福音のみことばは、このようなイエスの叫びで締めくくられています。イエスが愛の掟として示されたことは、私たちのためにそのいのちを与え尽くしてくださったイエスの肉声の命令として、私たちの心に響いているのです。私たちがイエスのこの想いを受け止めることが出来るとき、イエスが約束しておられるイエスと私たちを結ぶ喜びを知ることが出来ることでしょう。父なる神の愛の掟に従いとおして、十字架の上にそのいのちをささげられた、復活のイエスを満たす喜びを私たちも経験し、その喜びの中でイエスと結ばれている私たちを発見することが出来ることでしょう。そのようにして私たちは、イエスがそのように言ってくださった、イエスの友となることが出来るのです。そのためにも、報われることのない、愛を期待すること出来ないお互い同士を愛しぬく、イエスが身をもって示された愛に習う恵みを願い求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高